

平成 16 年度調査の粗集計について

1. 粗集計の概要（患者特性調査票）

本資料では、第 1 回調査説明会参加病院を中心に 3 月 7 日までに回収された患者特性調査票に関して集計を行った。

集計の対象は以下のとおりである。なお、最終的な調査対象病院数の見込みは、90 病院である。

図表 集計対象数（3月7日時点回収分）

病棟種別 （算定入院料種別）	集計対象数				
	病院数	病棟数		患者数	
療養病棟入院基本料を算定している病棟 （以下、医療療養）	53 病院	37 病棟	39.4%	1,616 人	41.5%
療養型介護療養施設サービス費を算定している病棟 （以下、介護療養）		26 病棟	27.7%	1,093 人	28.0 %
特殊疾患療養病棟入院基本料（1,2）を算定している病棟 （以下、特殊疾患療養）		16 病棟	17.0%	622 人	16.0 %
一般病棟入院基本料 群 3 を算定している病棟 （以下、一般病棟 群 3）		4 病棟	4.3%	115 人	3.0 %
回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している病棟 （以下、回復期リハビリ）		11 病棟	11.7%	452 人	11.6 %
合計		94 病棟	100.0%	3,898 人	100.0 %

2. 粗集計項目

患者特性調査票より収集されたデータを以下の項目について集計した。集計にあたっては、入院患者特性が異なることが想定されるため病棟種別（算定入院料種別）に集計した。

図表 患者特性調査の集計項目一覧表

A. 基本属性			
	集計項目	設問番号	今回集計分
1	性別	FS 3	
2	年齢	FS 4	
3	在院日数	FS 6	
4	入院する前の居所	1	
5	入院した背景	2	
6	障害者手帳の保有状況	7,8,9	
7	退院（転棟）先の見通し	1	
8	退院（転棟）までの日数	2	
9	家族等への介護の期待	4	
B. 疾患名			
	集計項目	設問番号	今回集計分
10	疾患名（うち主傷病名）	1,3	
11	主傷病発症後経過日数	5	
12	感染症名	2	
C. 症状			
	集計項目	設問番号	今回集計分
13	症状の種類	1	
14	痛みの有無・頻度	2	
15	状態の安定性	3	
16	体重の変化	1	
D. 提供されている医療の内容			
	集計項目	設問番号	今回集計分
17	医師による直接医療提供頻度	3	
18	看護師による直接医療提供頻度	4	
19	医師の指示変更の頻度	4	
20	注射・点滴を受けた日数	1	
21	注射・点滴の種類	2	
22	処置・治療の内容	1	
23	検査の種類別実施状況	5	
24	麻酔の種類別、手術の実施状況	6	

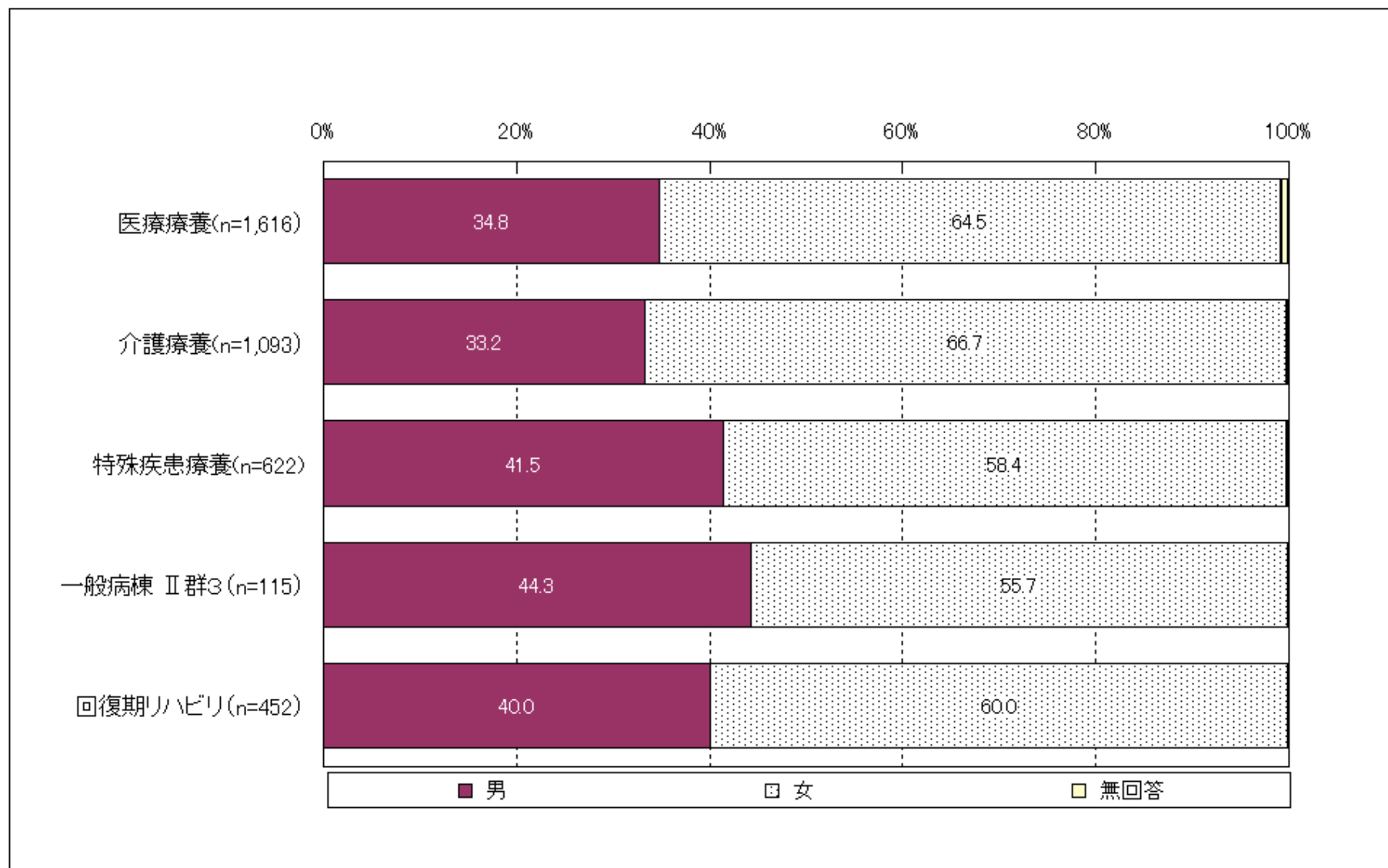
E. 提供されている医療の内容(つづき)		
集計項目	設問番号	今回集計分
25 薬効別、薬剤使用量		
26 向精神薬の種類別、使用日数	2	
27 特定保険医療材料の種類別、使用量		
28 リハビリテーションの必要性	1	
29 リハビリテーションが必要な疾患が発症してからの日数	1	
30 実施したリハビリテーションの種類	2	
31 看護師によるリハビリテーションの実施状況	3	
32 身体抑制の状況	3	
33 栄養摂取の方法	2	
34 衛生材料等の種類別、使用量		
F. ADL、認知症の状況		
集計項目	設問番号	今回集計分
35 要介護度	5	
36 厚生労働省「障害老人の日常生活自立度判定基準」	6	
37 厚生労働省「痴呆性老人の日常生活自立度判定基準」	7	
38 ADL 自立度	1	
39 ADL の変化	2	
40 立ち上がり	3	
41 片足での立位保持	4	
G. 記憶・認知の状況		
集計項目	設問番号	今回集計分
42 意識障害の有無	1	
43 短期記憶の状況	2	
44 日常の意思決定を行うための認知能力	3	
45 せん妄の兆候・混乱した思考・意識	4	
46 認知状態の変化	5	
H. コミュニケーションの状態		
集計項目	設問番号	今回集計分
47 自分を理解させることができる	1	
48 コミュニケーションの変化	2	
I. 気分と行動の状況		
集計項目	設問番号	今回集計分
49 うつ状態、不安、悲しみの気分の兆候	1	
50 問題行動の有無	2	
51 問題行動の変化	3	

J．皮膚の状態		
集計項目	設問番号	今回集計分
52 褥瘡・潰瘍のステージ別数	1	
53 褥瘡・潰瘍の種類	2	
54 褥瘡・潰瘍以外の皮膚の問題	3	
55 皮膚のケアの状況	4	
56 足の問題とケアの状況	5	
K．ケアニーズ		
集計項目	設問番号	今回集計分
57 ケアニーズの変化	3	
L．診療報酬の状況		
集計項目	設問番号	今回集計分
58 算定している入院料の種類	FS 10	
59 診療報酬の算定（加算含む）状況	FS11	
60 特定患者の該当状況（在院日数 90 日超のみ）	FS12	
61 特定療養費該当状況（在院日数 180 日超のみ）	FS13	

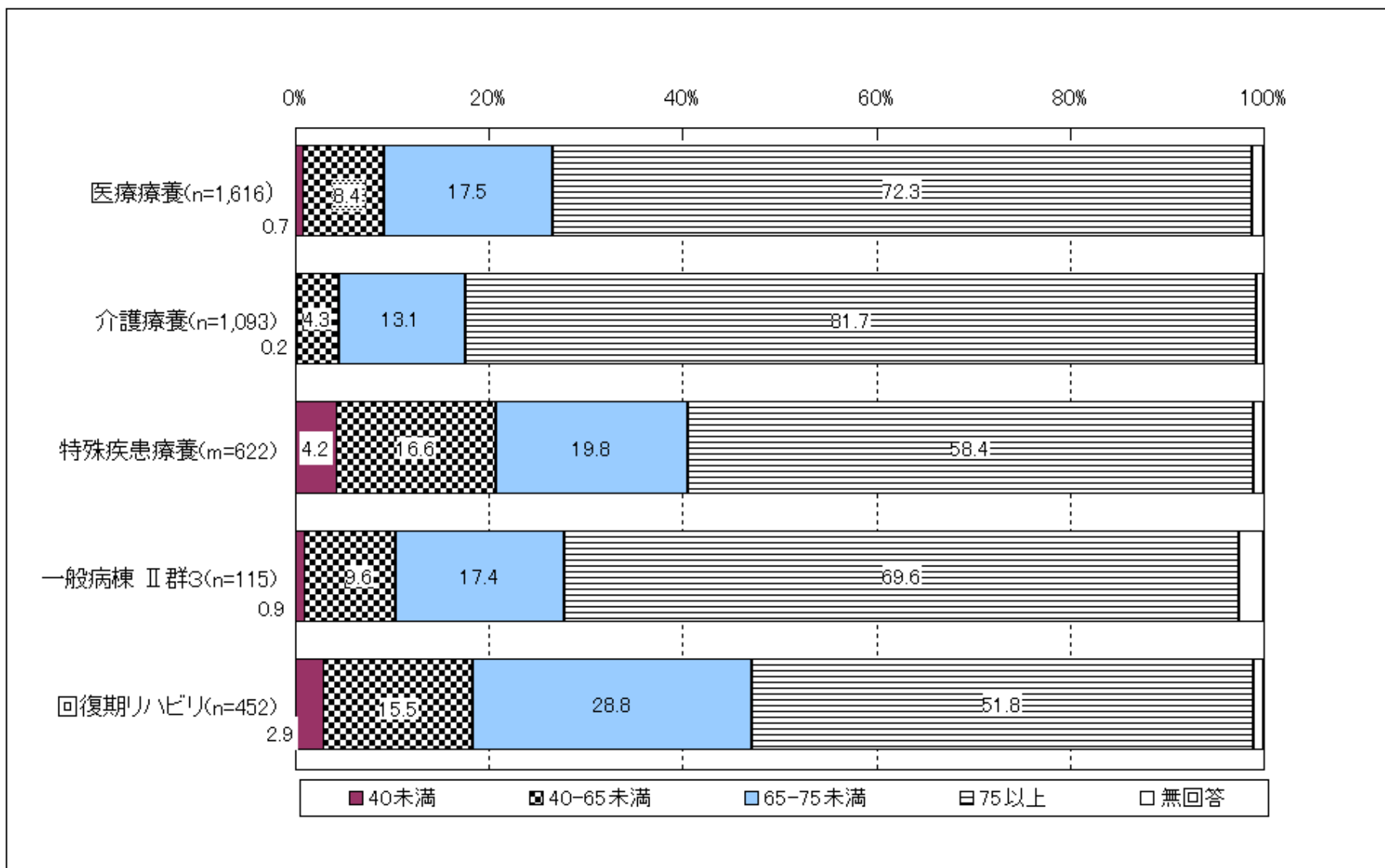
3．粗集計結果（患者特性調査票）

前述の「患者特性調査の集計項目一覧表」に沿って粗集計結果を示す。

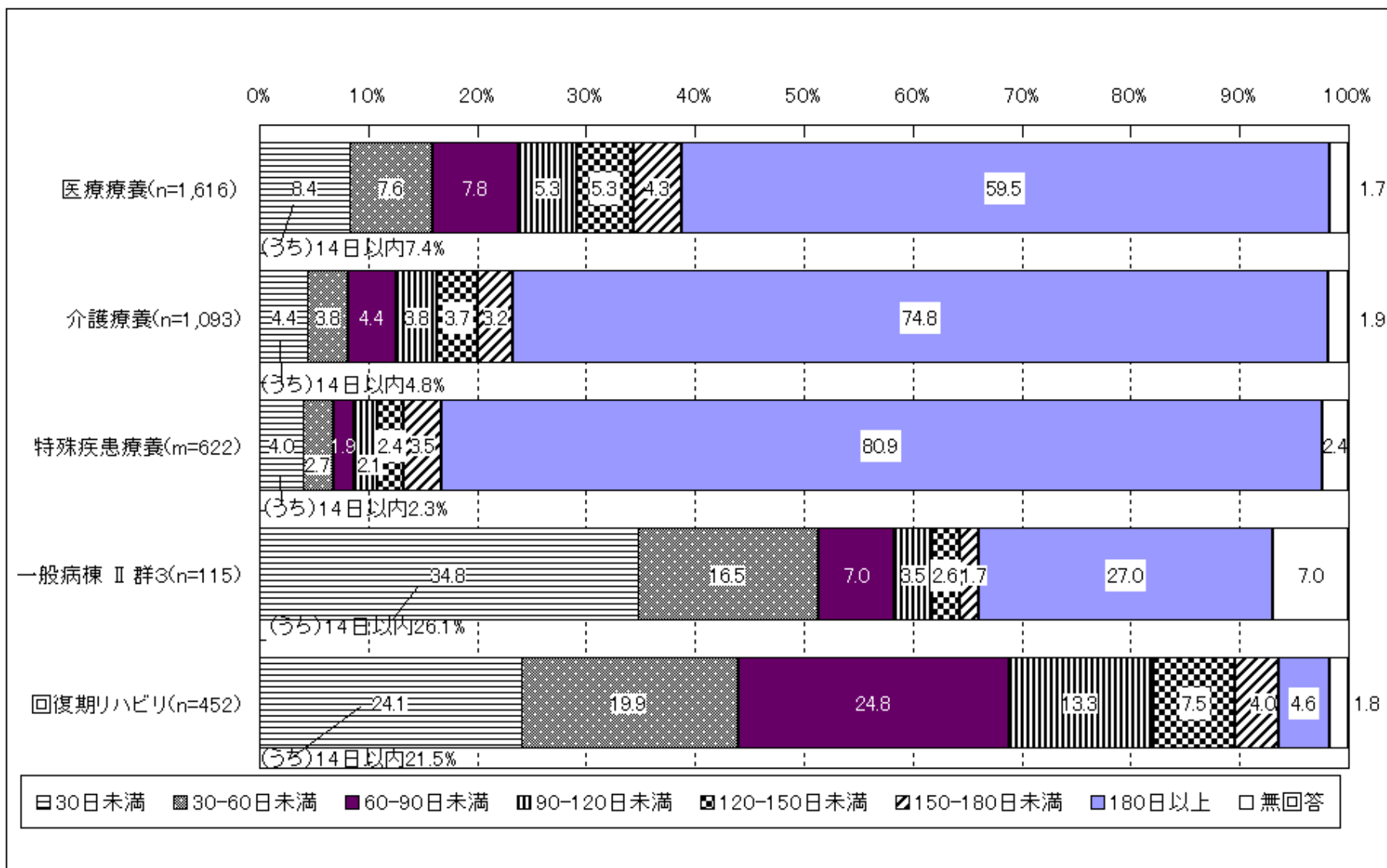
1) 性別【調査票 F S 3】



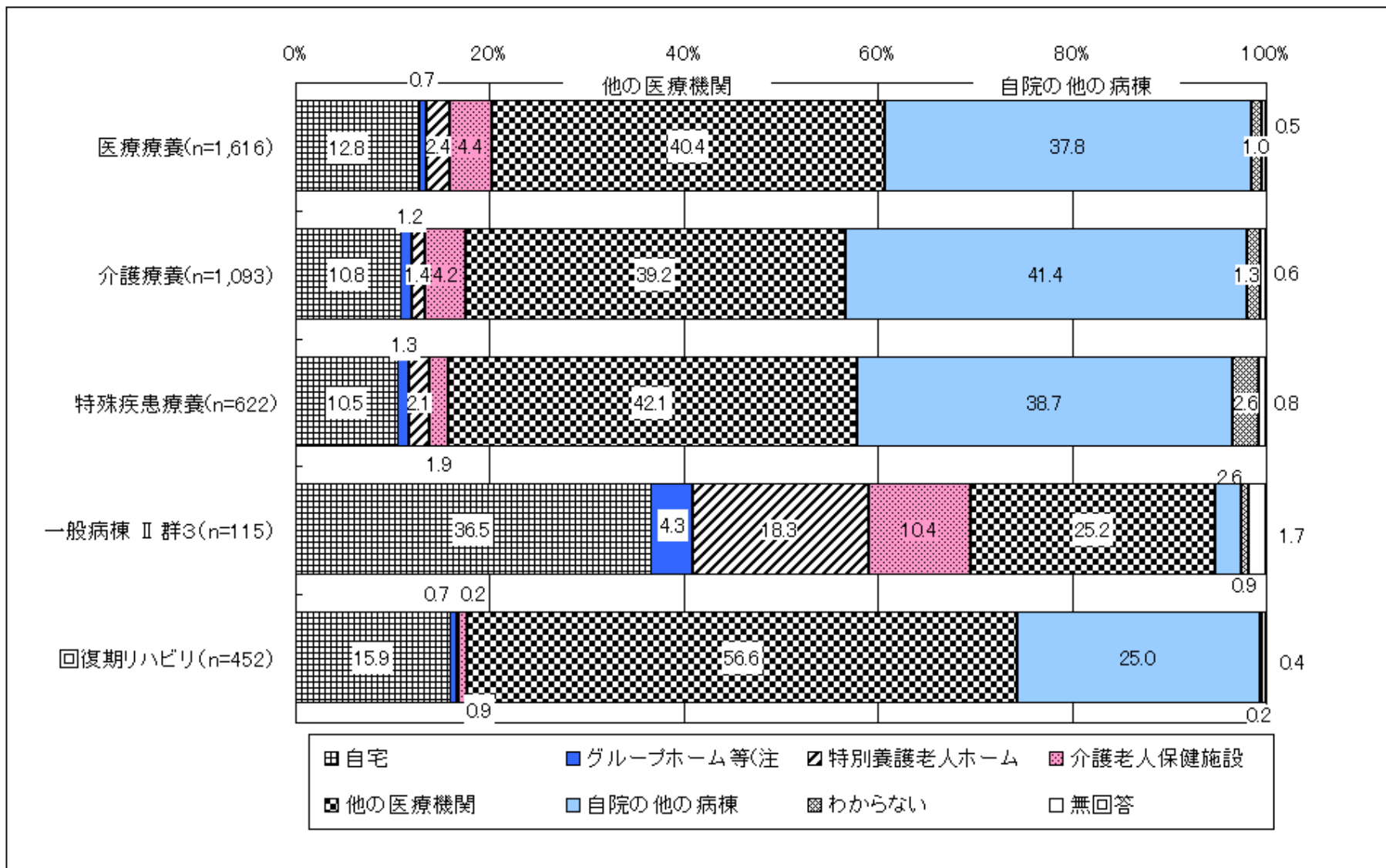
2) 年齢【調査票 F S 4】



3) 入院(転棟)日から調査日までの日数(調査時点の在院日数)【調査票F S 6】

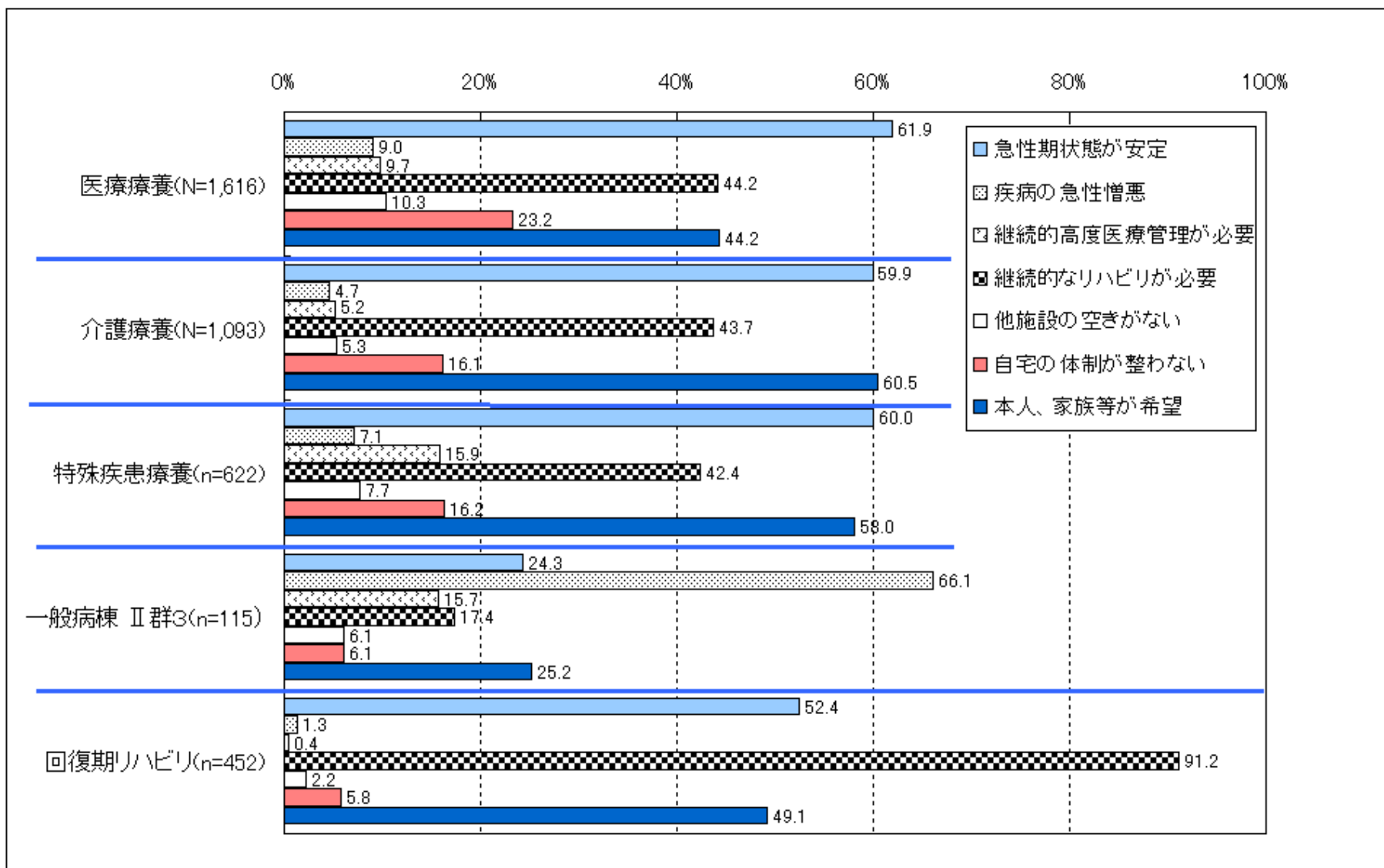


4) 入院する前の居所：単数回答【調査票 1】



注：グループホーム等＝グループホーム、有料老人ホーム、ケアハウスの合計

5) 入院(転棟)した背景: 複数回答【調査票 2】

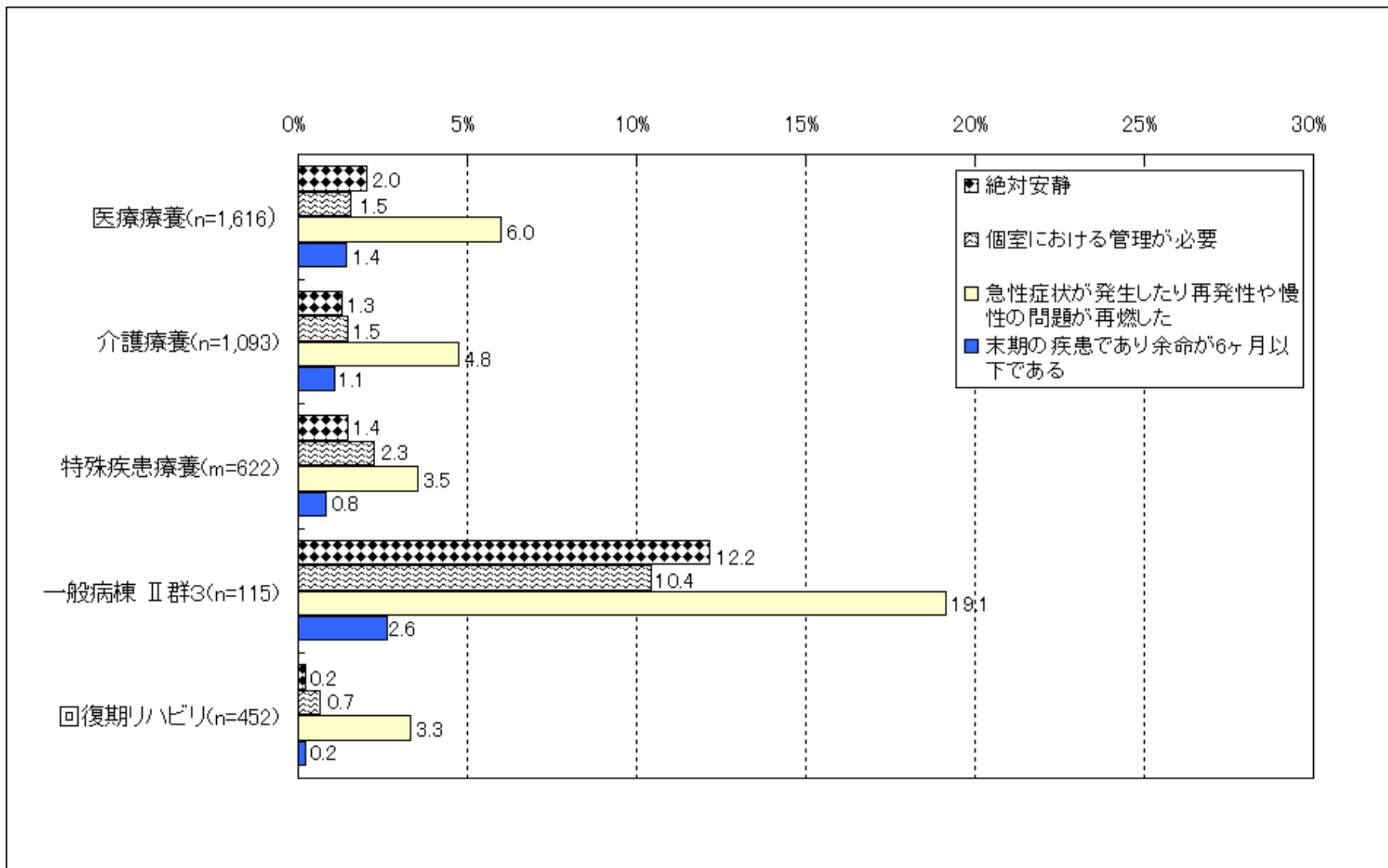


6) 疾患名：複数回答【調査票 1】

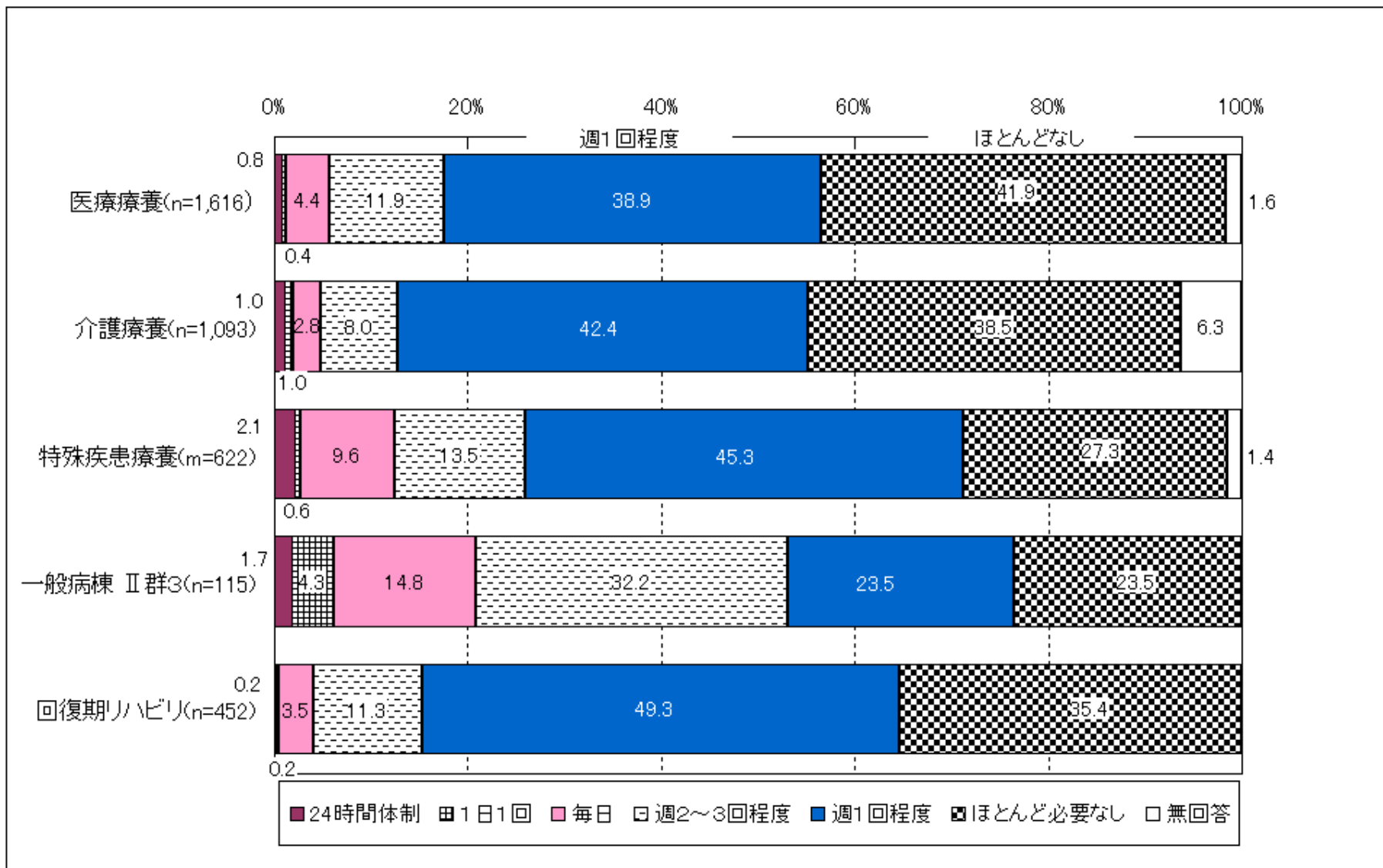
	医療療養	介護療養	特殊疾患療養	一般病棟 群3	回復期 リハビリ
	n=1,616	n=1,093	n=622	n=115	n=452
脳梗塞	36.2	46.8	37.9	29.6	41.2
高血圧症	19.6	22.3	18.0	11.3	45.8
アルツハイマー病以外の痴呆症	20.7	26.8	16.6	7.8	10.8
片側不全麻痺 / 片麻痺	12.2	16.9	17.4	8.7	33.2
脳出血	12.9	14.5	22.2	6.1	20.8
糖尿病	13.2	13.7	14.6	14.8	14.6
うっ血性心不全	9.7	10.9	13.0	10.4	4.9
大腿骨頸部骨折	7.4	10.5	4.7	6.1	20.4
虚血性心疾患	7.4	8.1	6.4	6.1	3.8
失語症	4.2	7.0	8.7	2.6	9.3
アルツハイマー病（アルツハイマー型痴呆）	5.0	9.8	5.9	3.5	1.5
不整脈	5.3	5.9	7.2	5.2	5.8
パーキンソン病関連疾患	5.6	4.8	9.6	2.6	2.9
がん（悪性腫瘍）	5.8	6.3	3.2	6.1	1.5
四肢麻痺	2.4	3.1	15.3	2.6	3.1
その他の骨折	3.8	2.7	1.9	5.2	10.6
脊椎圧迫骨折	3.5	6.9	1.4	2.6	1.8
肺気腫 / 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	3.0	3.7	4.7	5.2	3.1
喘息	2.5	2.5	1.6	2.6	2.9
その他の神経難病*	1.2	0.8	9.0	0.0	0.2
脊髄損傷	1.5	1.4	4.2	0.0	1.1
脳性麻痺	0.6	0.5	0.5	1.7	0.2
多発性硬化症	0.2	0.5	0.8	0.0	0.2
神経難病以外の難病	0.2	0.0	1.0	0.9	0.0

注：網掛けは、10%以上を占める疾患名を示している。

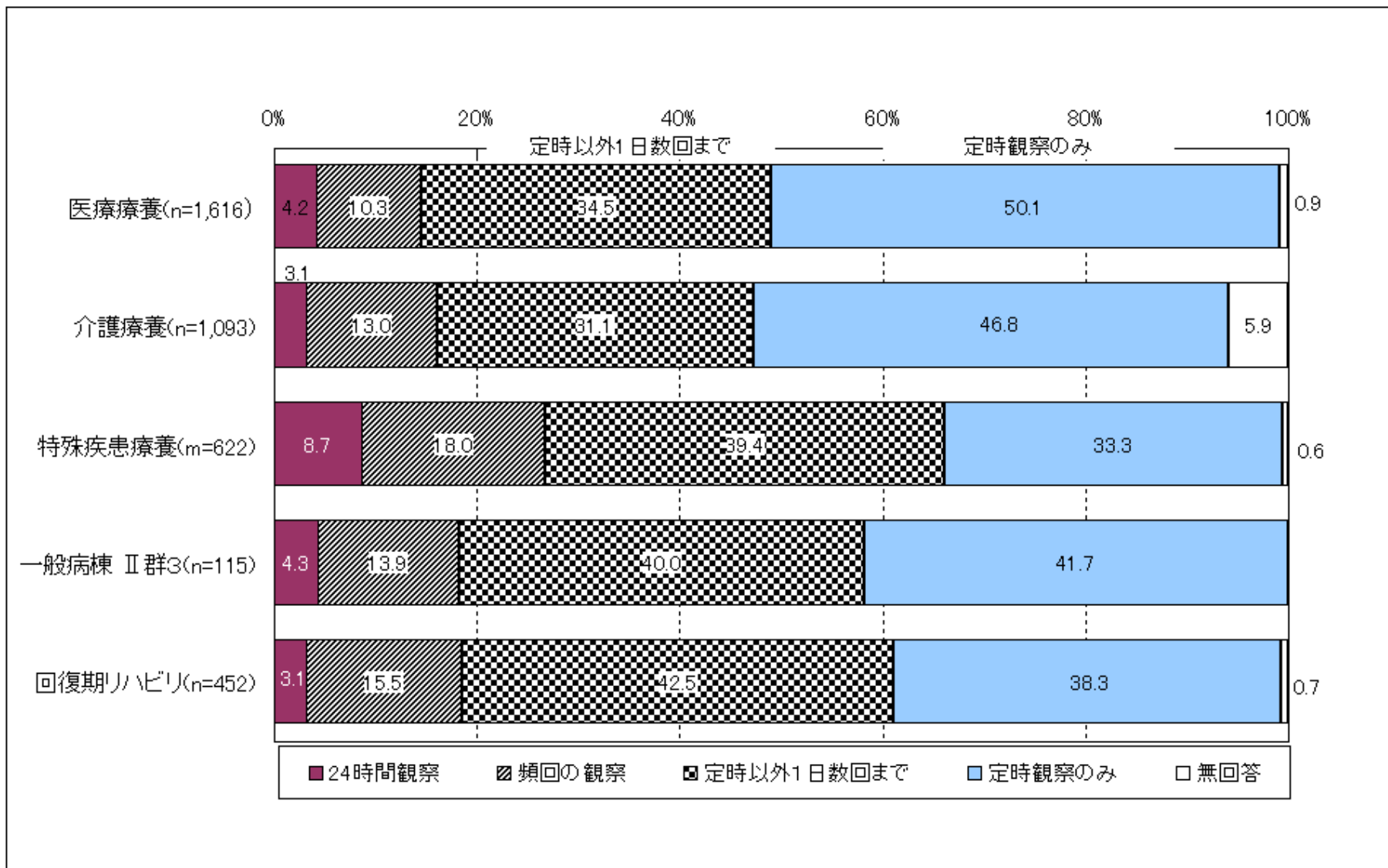
7) 状態の安定性：複数回答【調査票 3】



8) 医師による直接医療提供頻度：単数回答【調査票 3】



9) 看護師による直接看護提供頻度：単数回答【調査票 4】

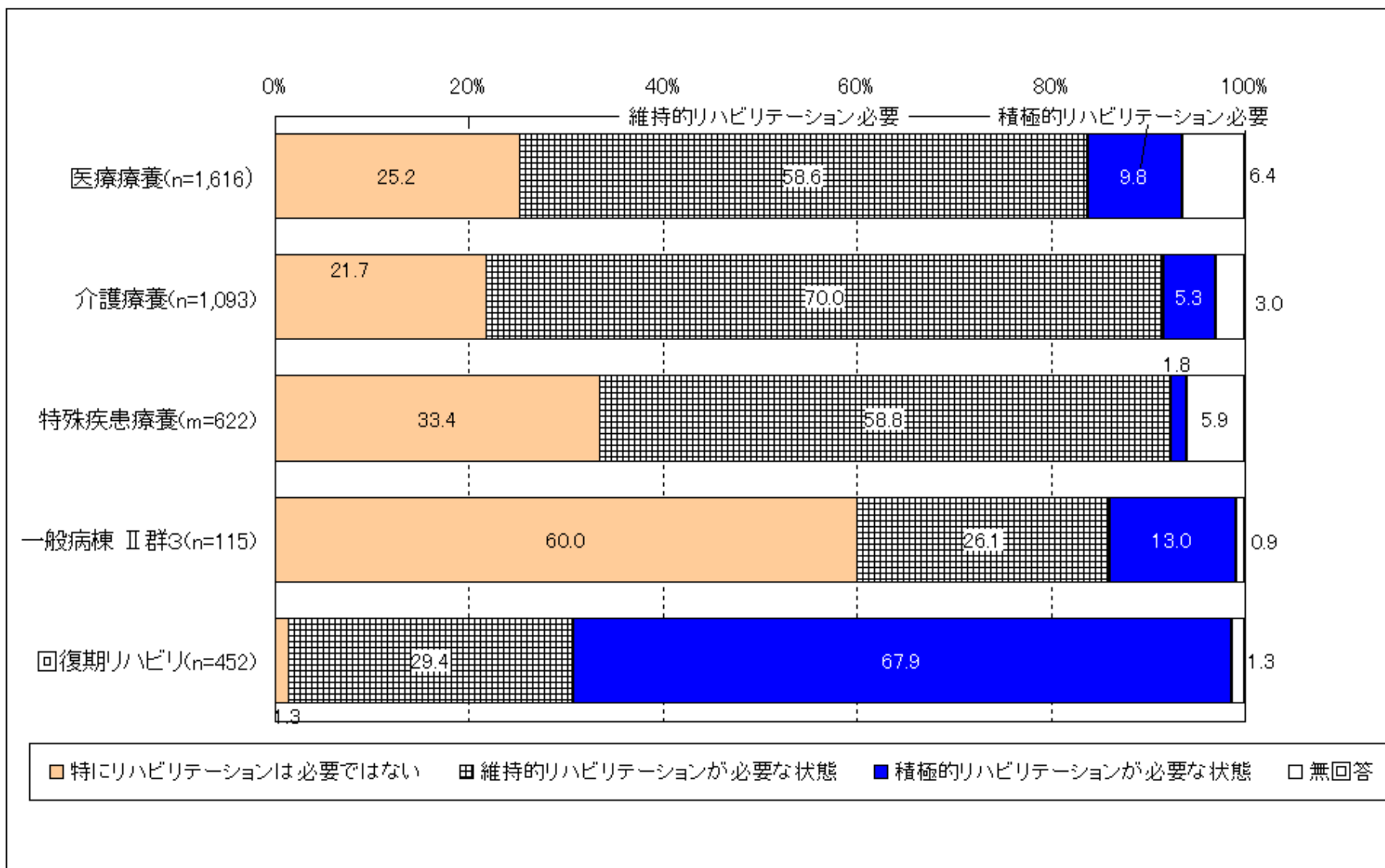


10) 処置・治療の内容：複数回答【調査票 1】

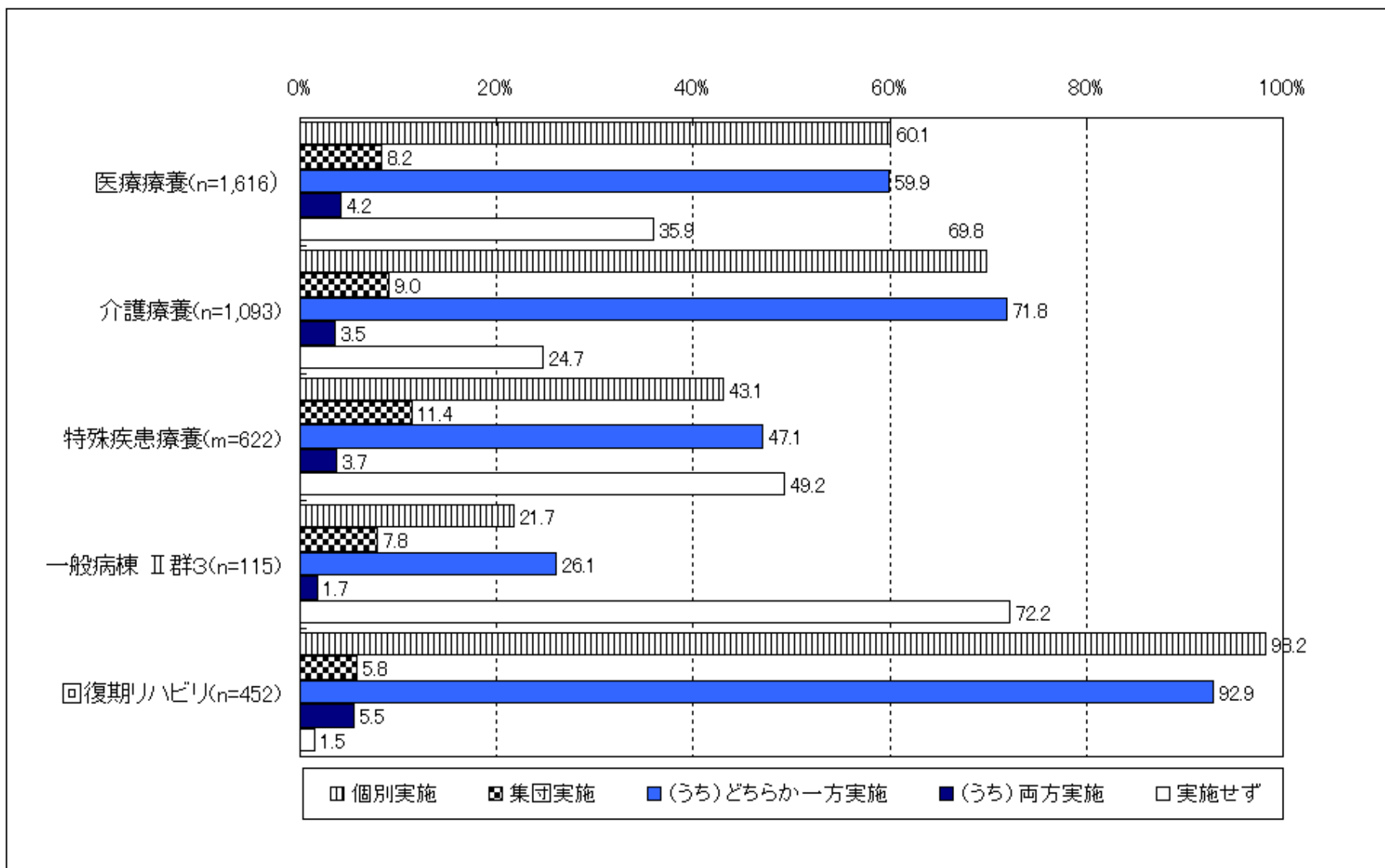
	医療療養	介護療養	特殊疾患療養	一般病棟 群3	回復期 リハビリ
	n=1,616	n=1,093	n=622	n=115	n=452
抗がん剤療法	0.2	0.3	0.2	0.0	0.4
透析	1.1	1.6	0.0	0.0	0.2
胃瘻、腎瘻、人工肛門などの瘻のケア	12.5	18.5	28.5	9.6	2.2
ドレーン法・胸腹腔洗浄	0.0	0.0	0.5	0.0	0.2
酸素療法	6.8	10.1	10.3	25.2	1.5
放射線治療	0.2	0.3	0.3	0.0	0.2
吸引（1日8回以上）	10.3	15.3	23.5	17.4	2.0
吸引（1日1～7回）	11.6	17.2	21.9	16.5	3.8
気管切開口・気管内挿管のケア	4.3	6.4	18.0	9.6	0.9
輸血	0.2	0.4	0.3	1.7	0.2
レスピレーター	0.1	0.2	5.6	4.3	0.2
緩和ケア	1.5	2.2	1.1	0.9	1.1
疼痛コントロール	3.5	5.1	3.1	6.1	5.1
膀胱留置カテーテル	9.3	13.8	15.9	24.3	4.4
感染隔離病室におけるケア	0.4	0.6	1.1	7.0	0.2
血糖チェック（1日3回以上）	1.1	1.6	1.8	2.6	3.8
血糖チェック（週1回～1日2回）	5.7	8.4	6.6	10.4	3.3
インシュリン皮下注射	4.2	6.2	5.0	6.1	2.2

注：網掛けは、実施している割合が5%以上を示している。

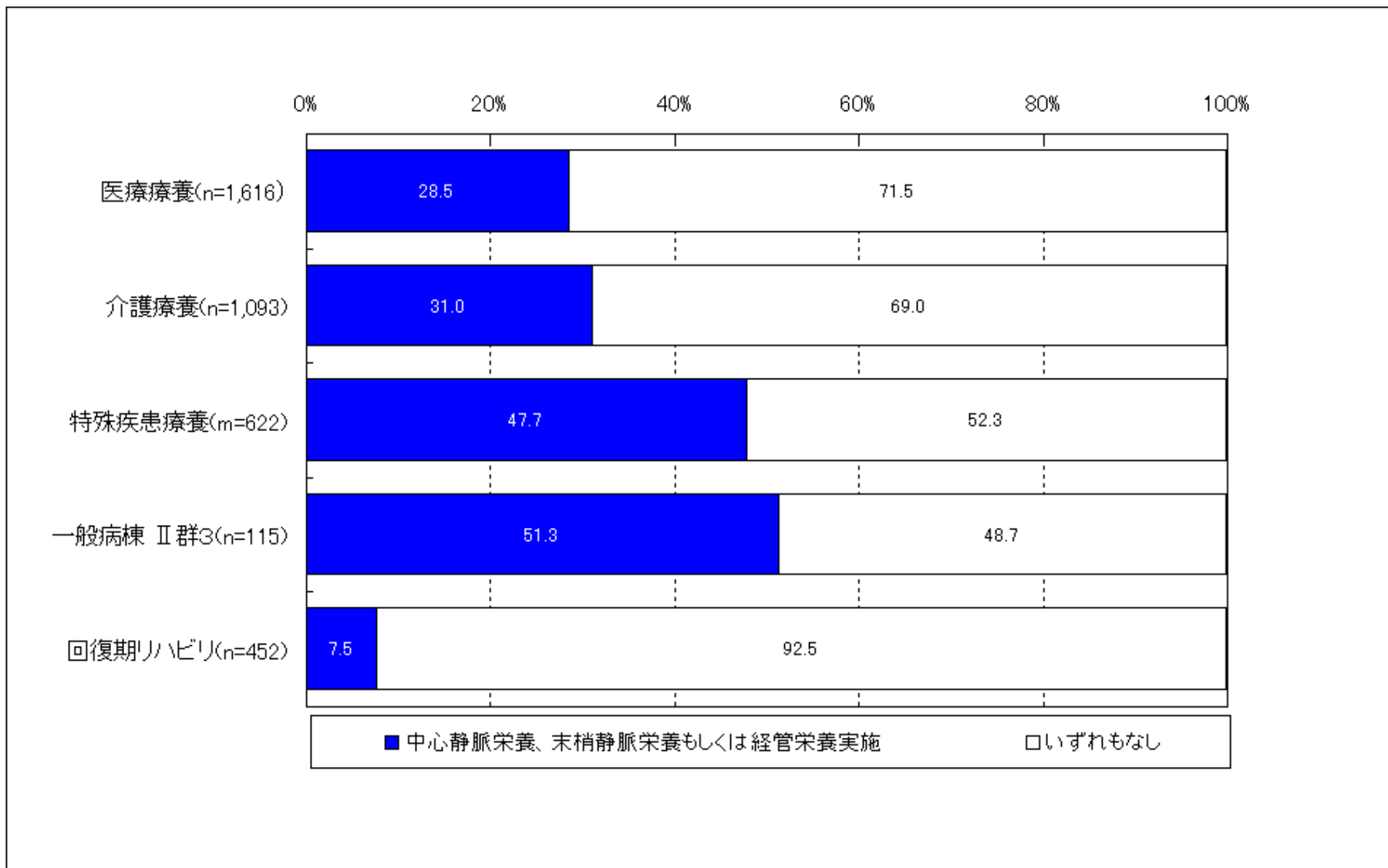
11) リハビリテーションの必要性：単数回答【調査票 1】



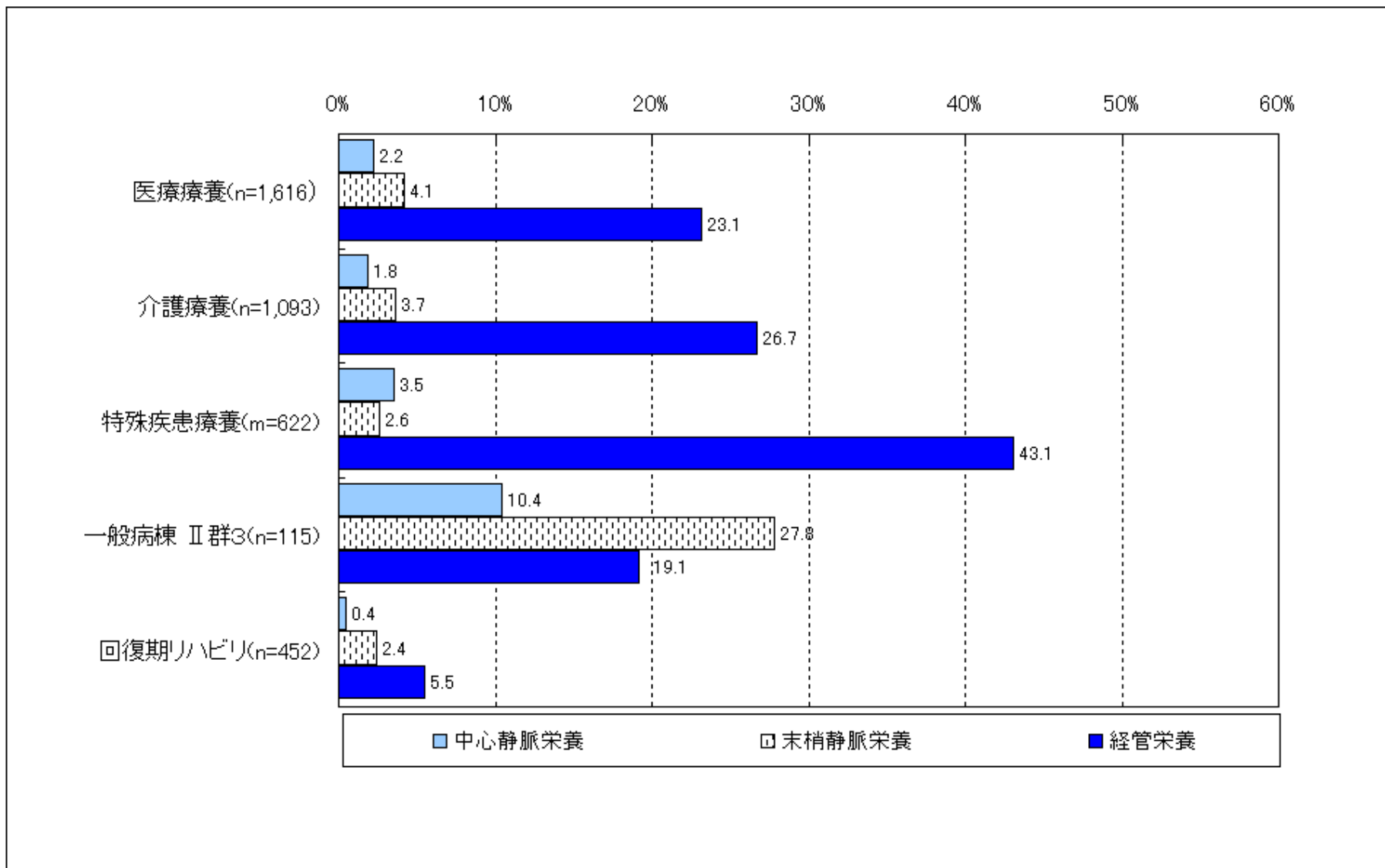
12) リハビリテーションの実施状況：複数回答【調査票 2】



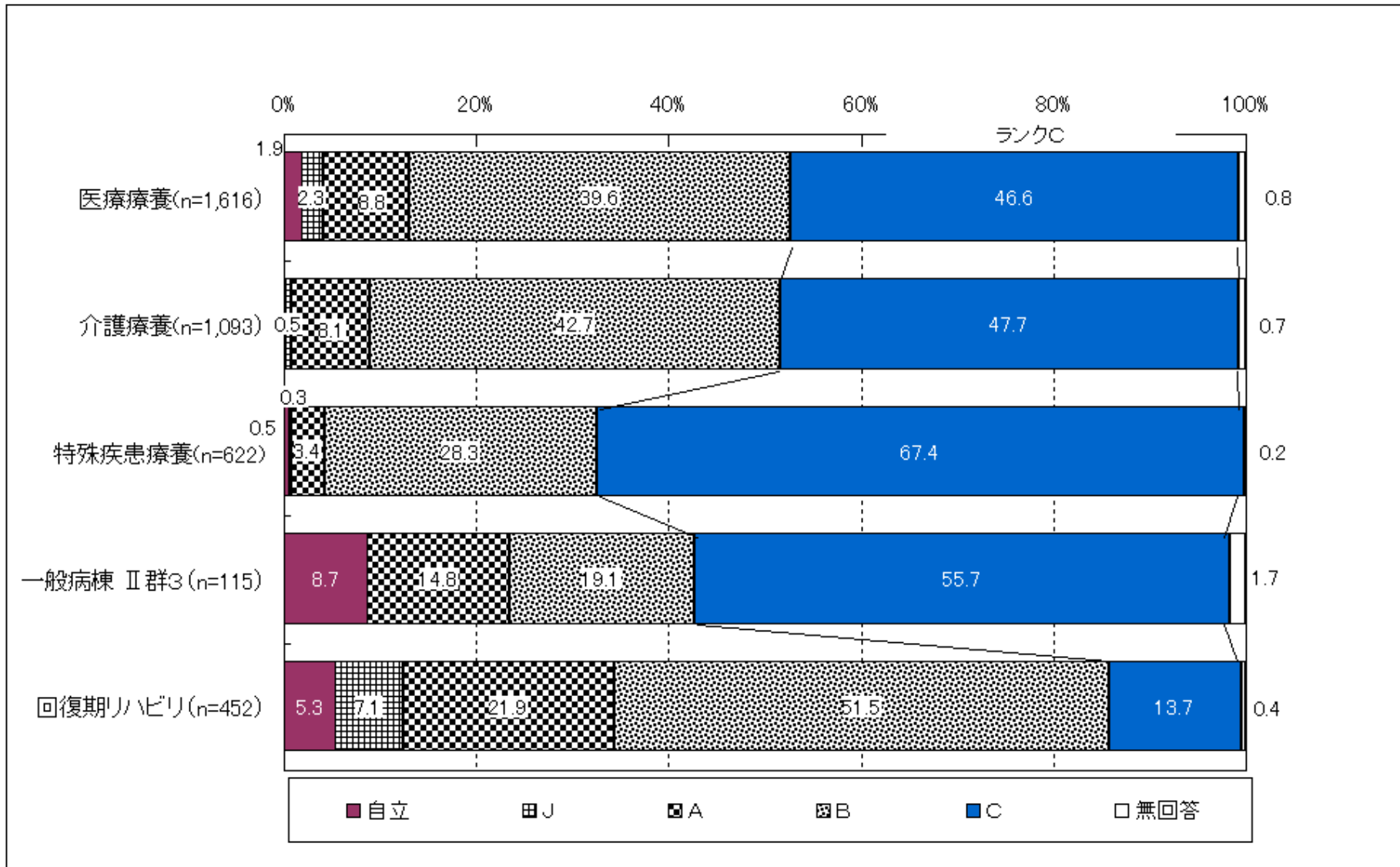
13) 中心静脈栄養、末梢静脈栄養、経管栄養の実施状況：単数回答【調査票 2】



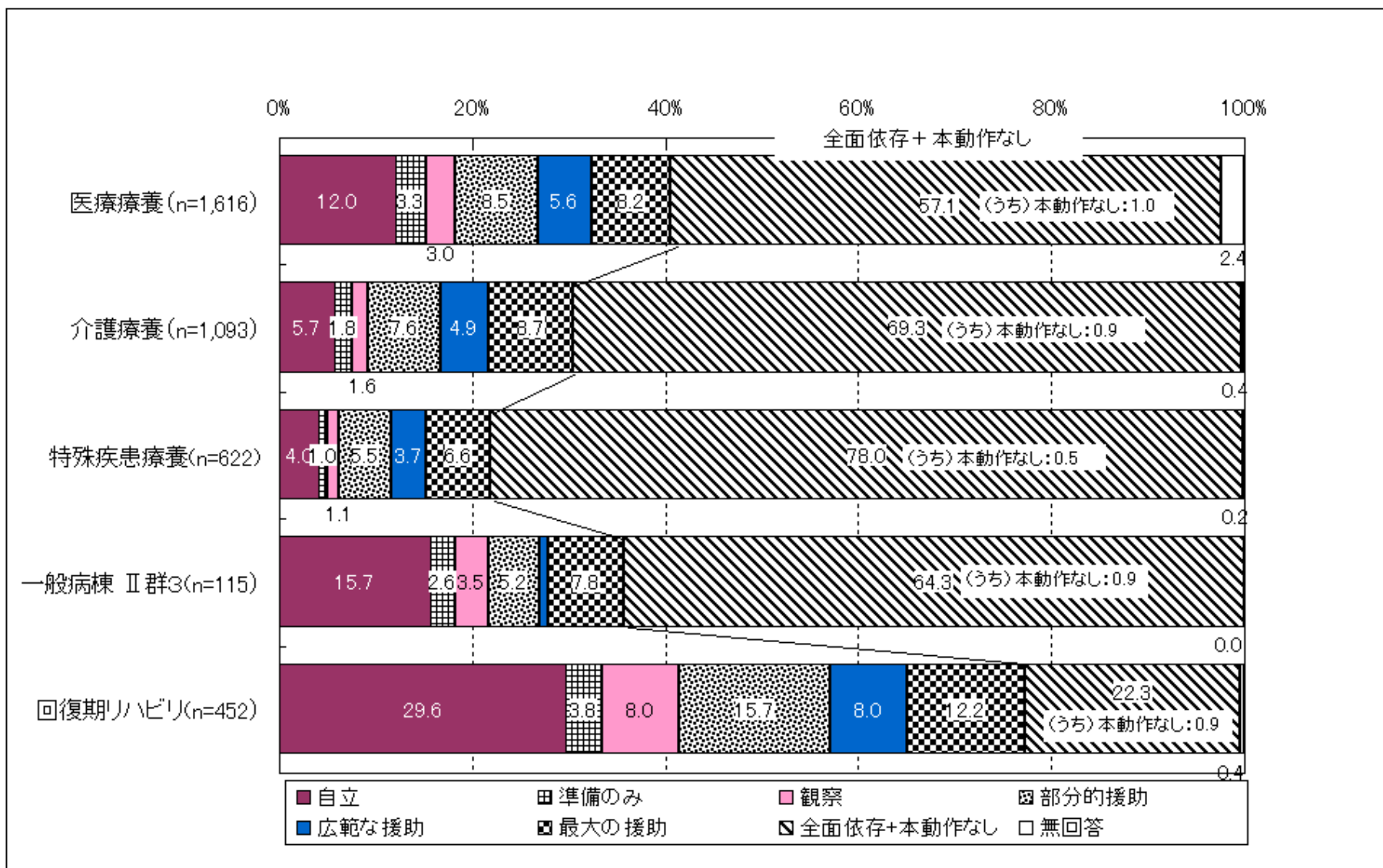
実施割合（中心静脈栄養、末梢静脈栄養、経管栄養）：複数回答【調査票 2】



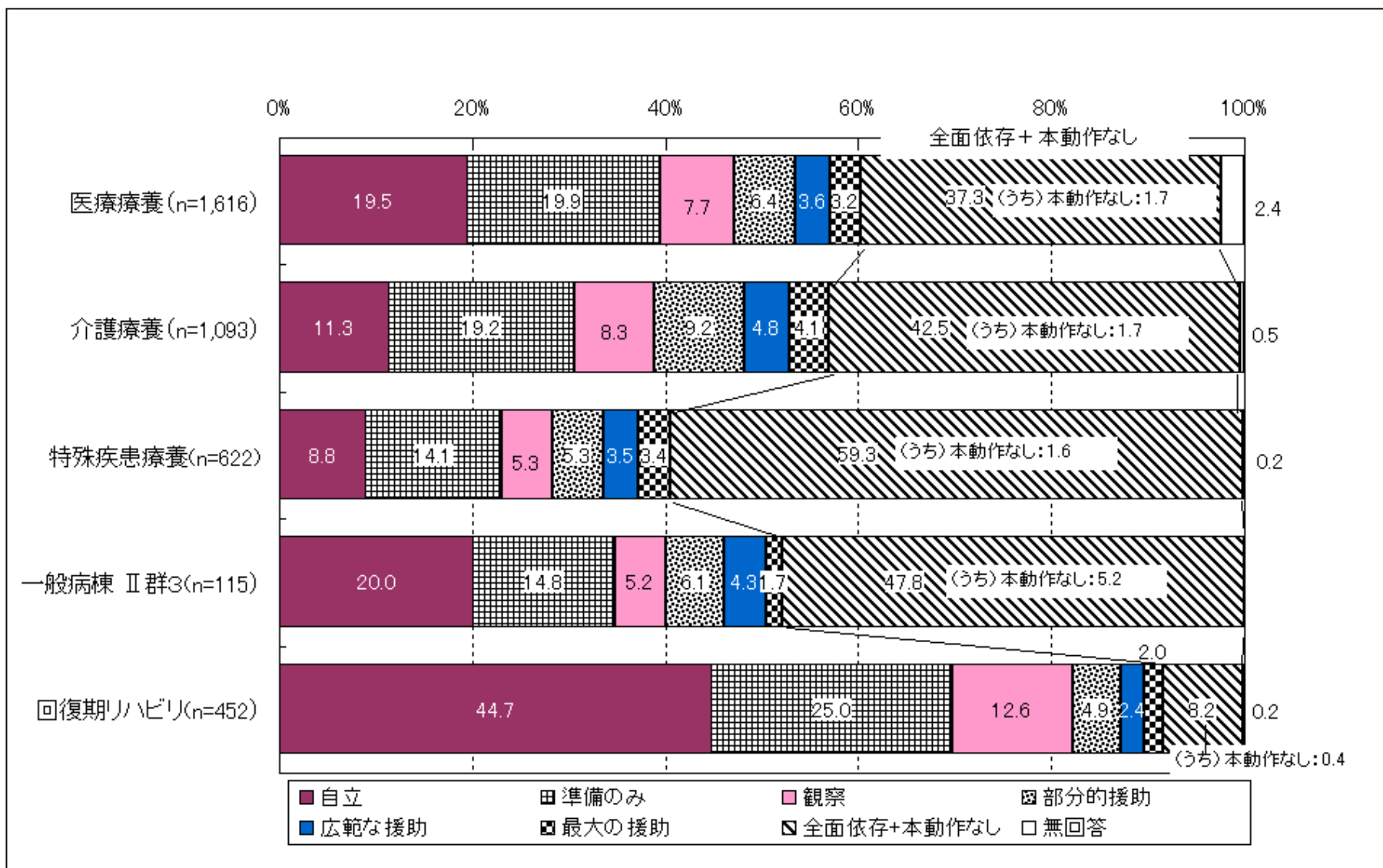
14) ADL (厚生労働省「障害老人の日常生活自立度判定基準」): 単数回答【調査票 6】



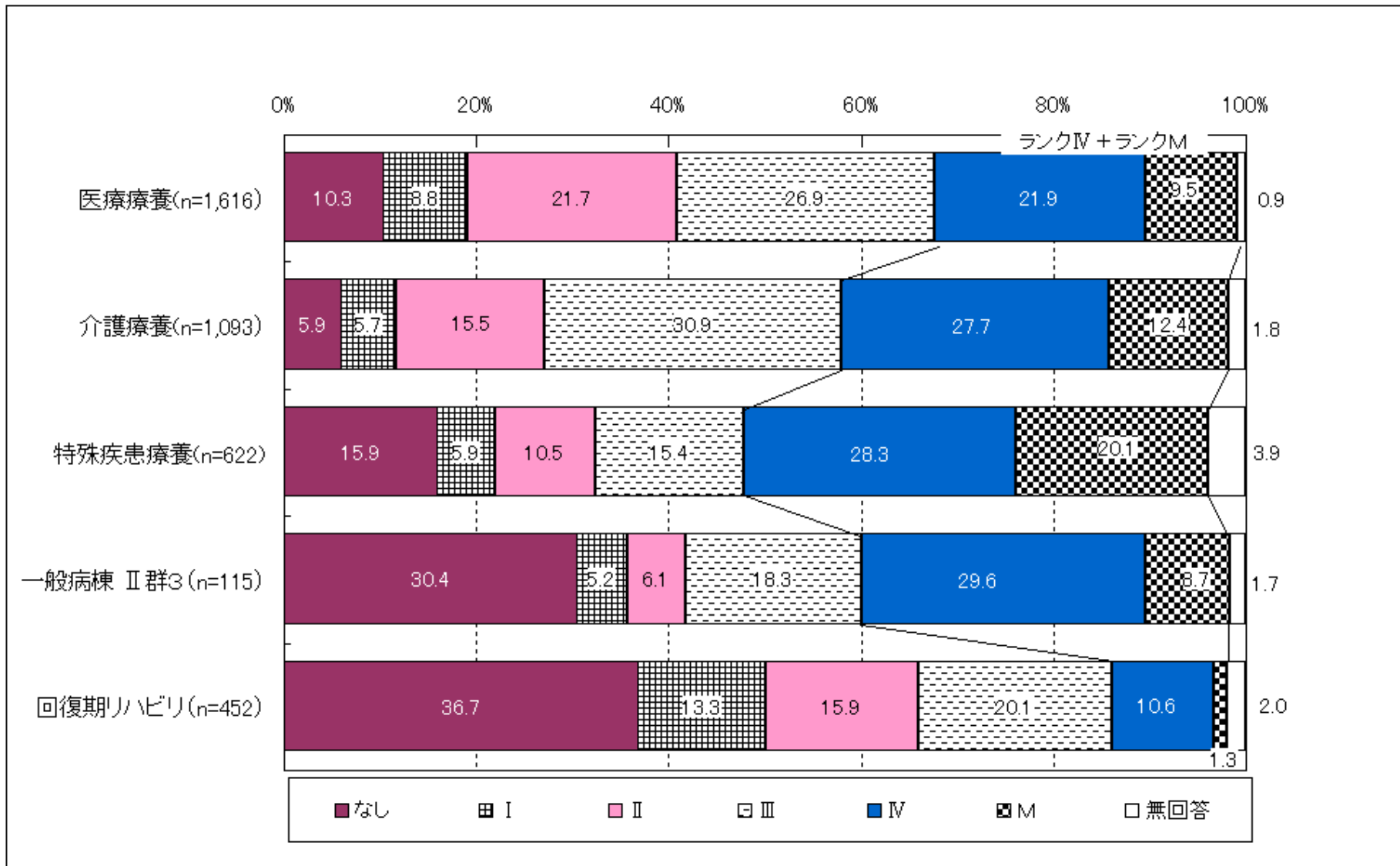
15) - 1 ADL 自立度 (更衣)【調査票 1】



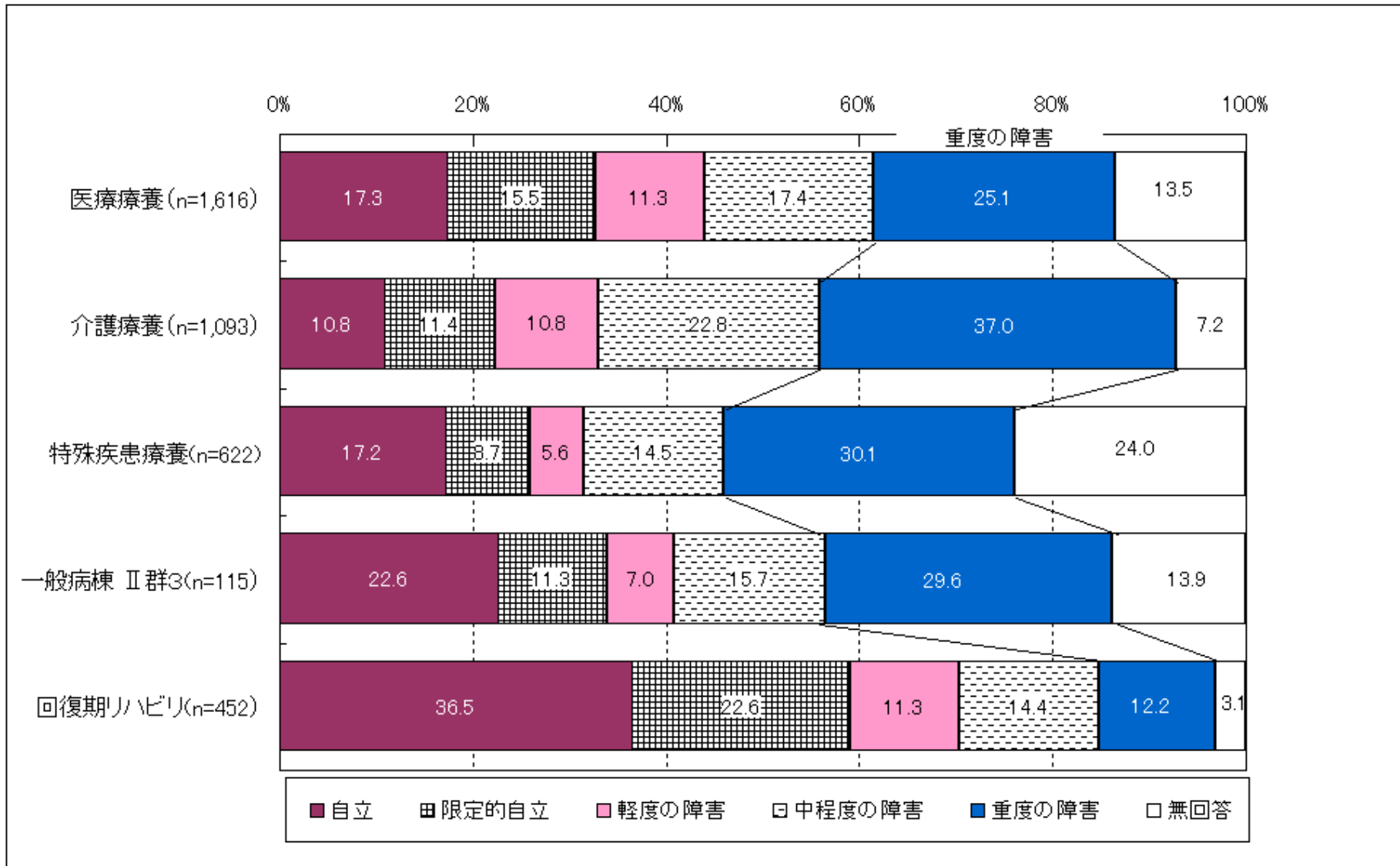
15) - 2 ADL 自立度 (食事)【調査票 1】



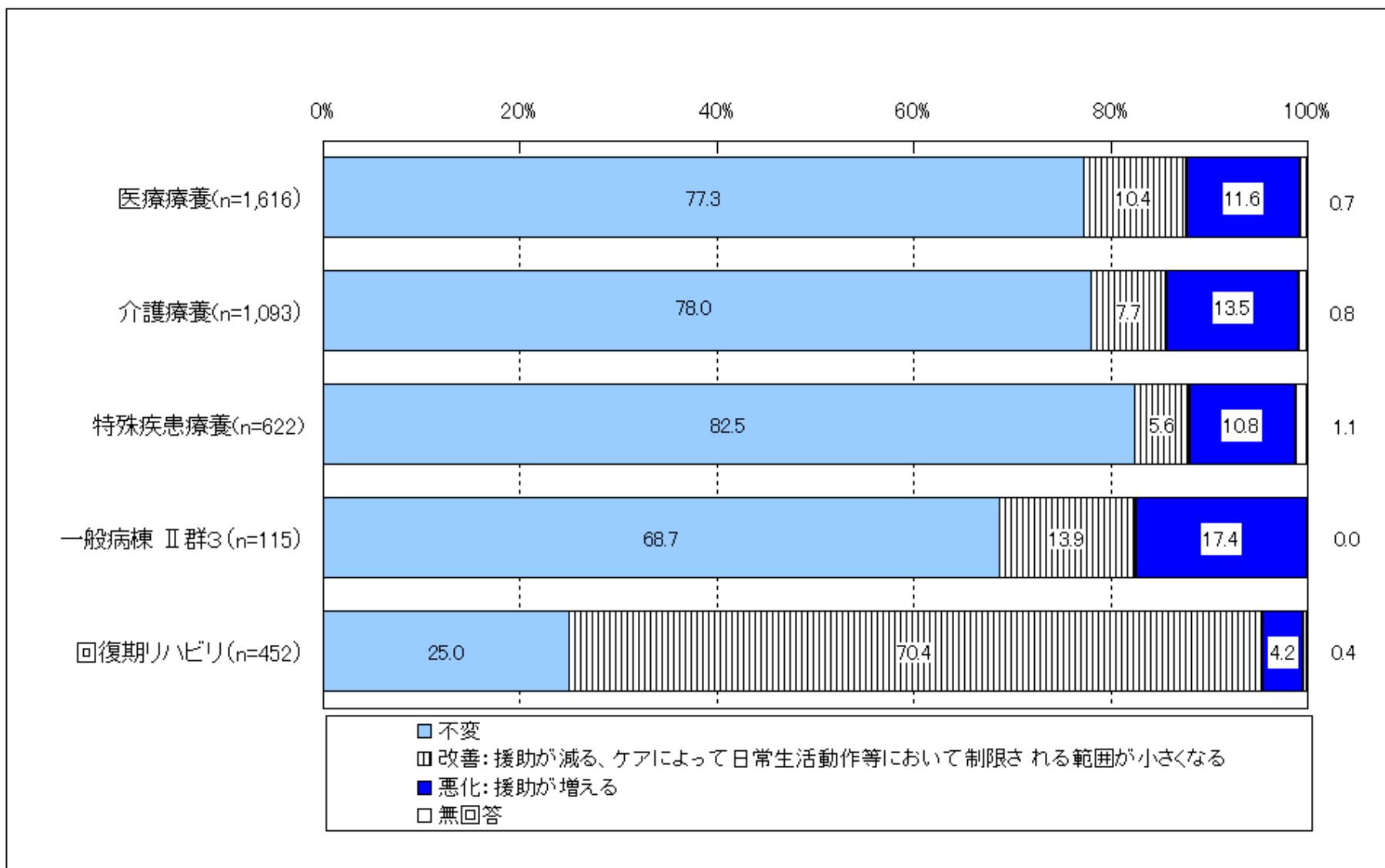
16) 認知症(厚生労働省「痴呆性老人の日常生活自立度判定基準」: 単数回答【調査票 7】



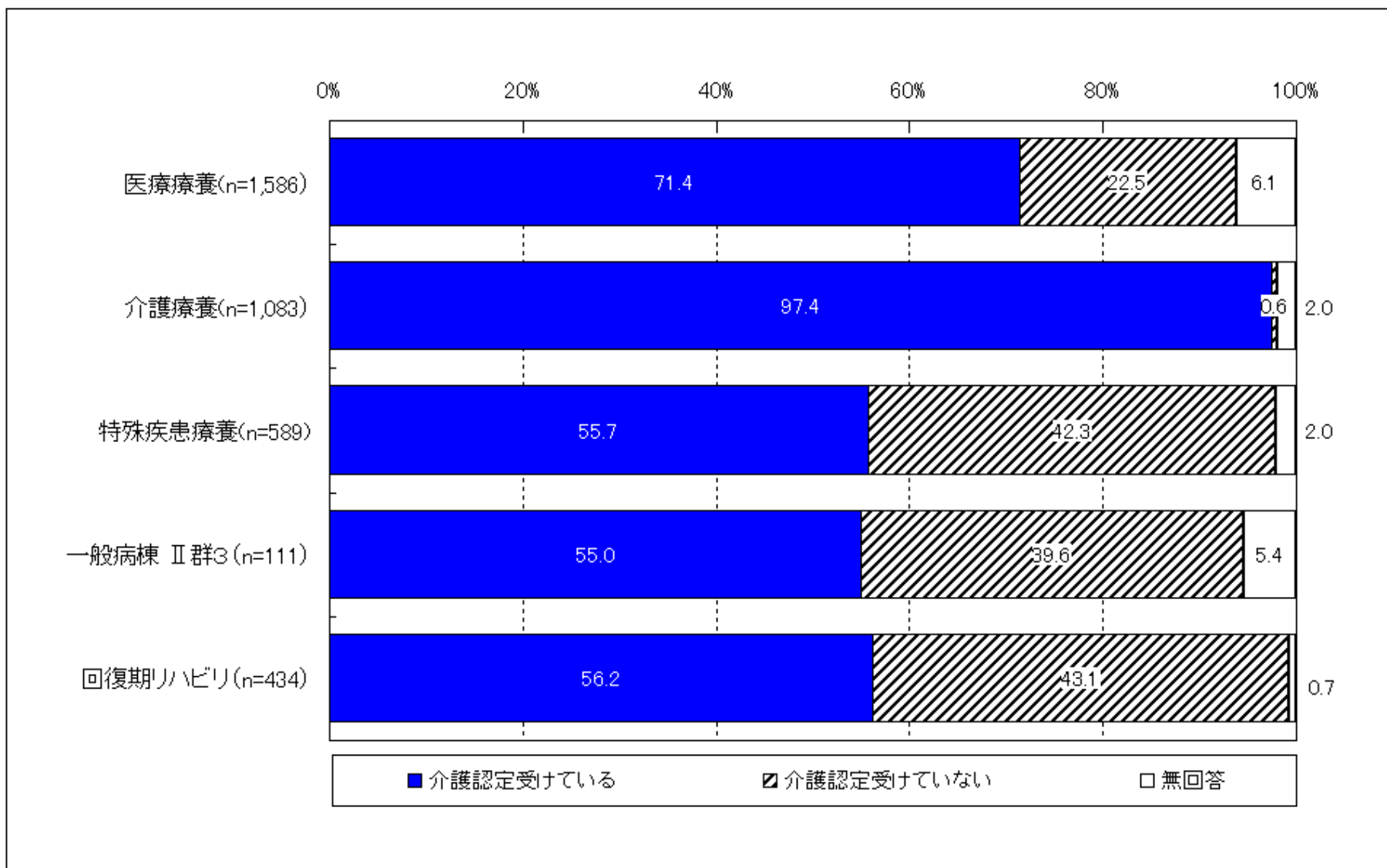
17) 日常の意思決定を行うための認知能力：単数回答【調査票 3】



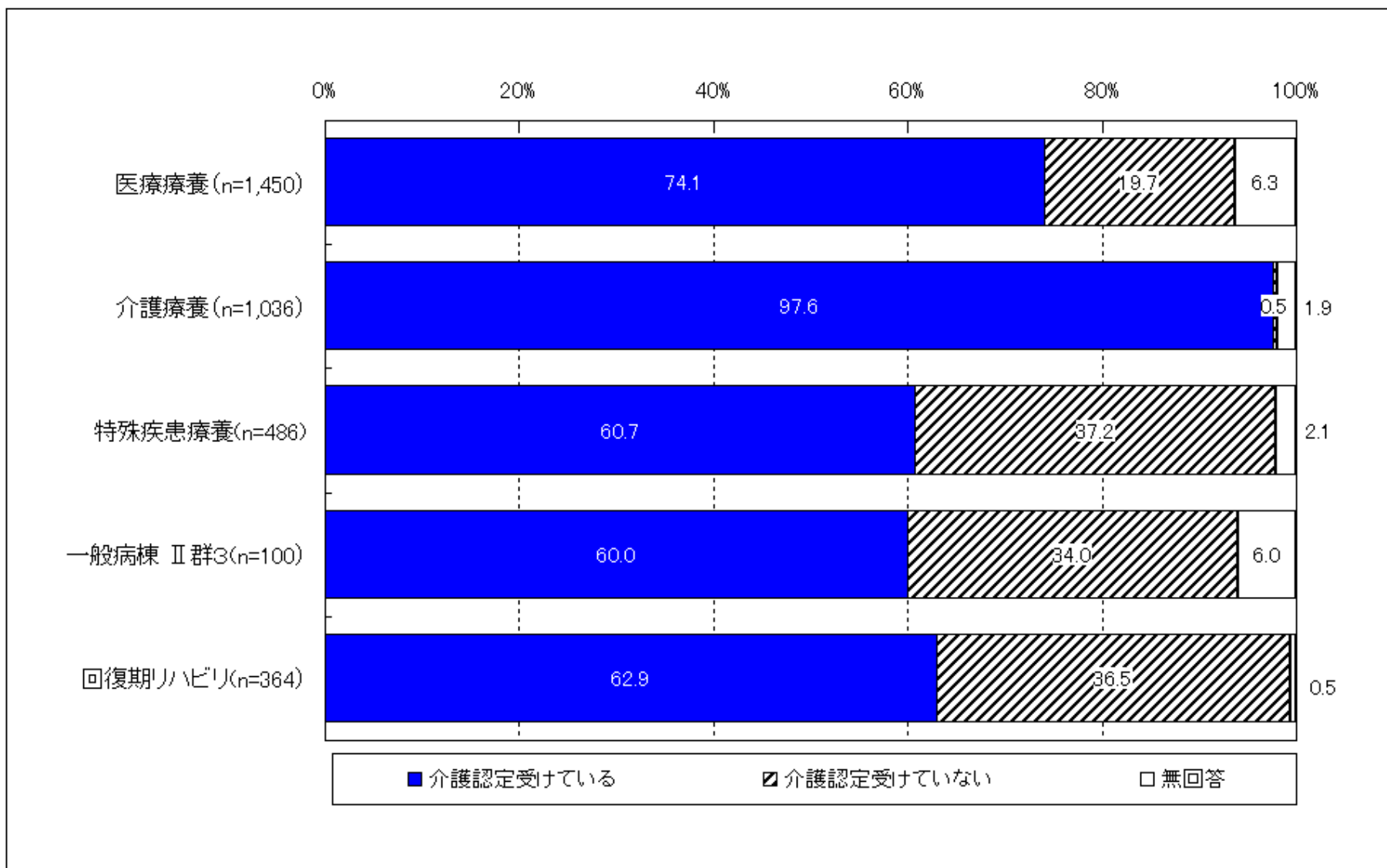
18) ケアニーズの変化：単数回答【調査票 3】



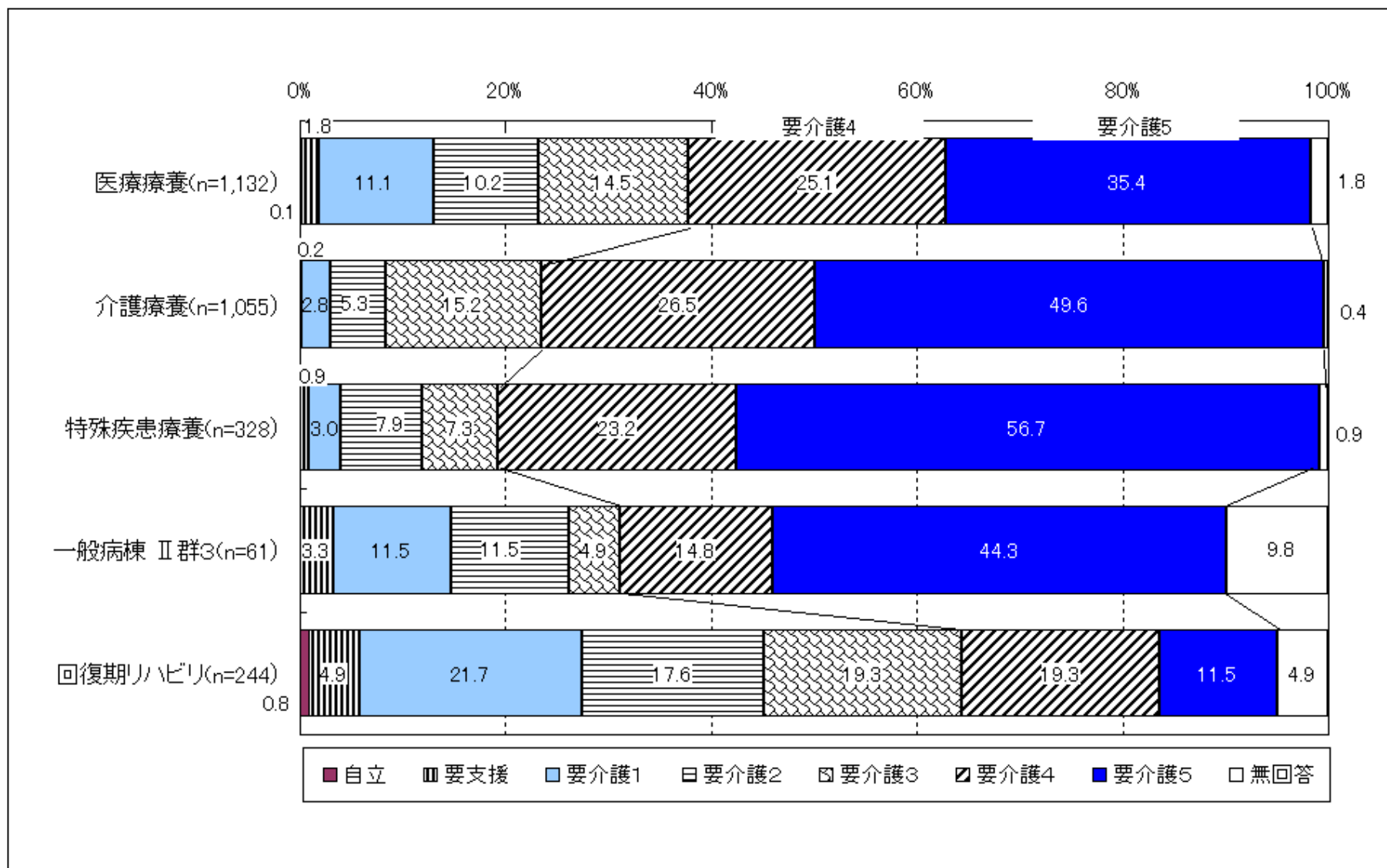
19) - 1 要介護認定を受けているか(40歳以上): 単数回答【調査票 5】



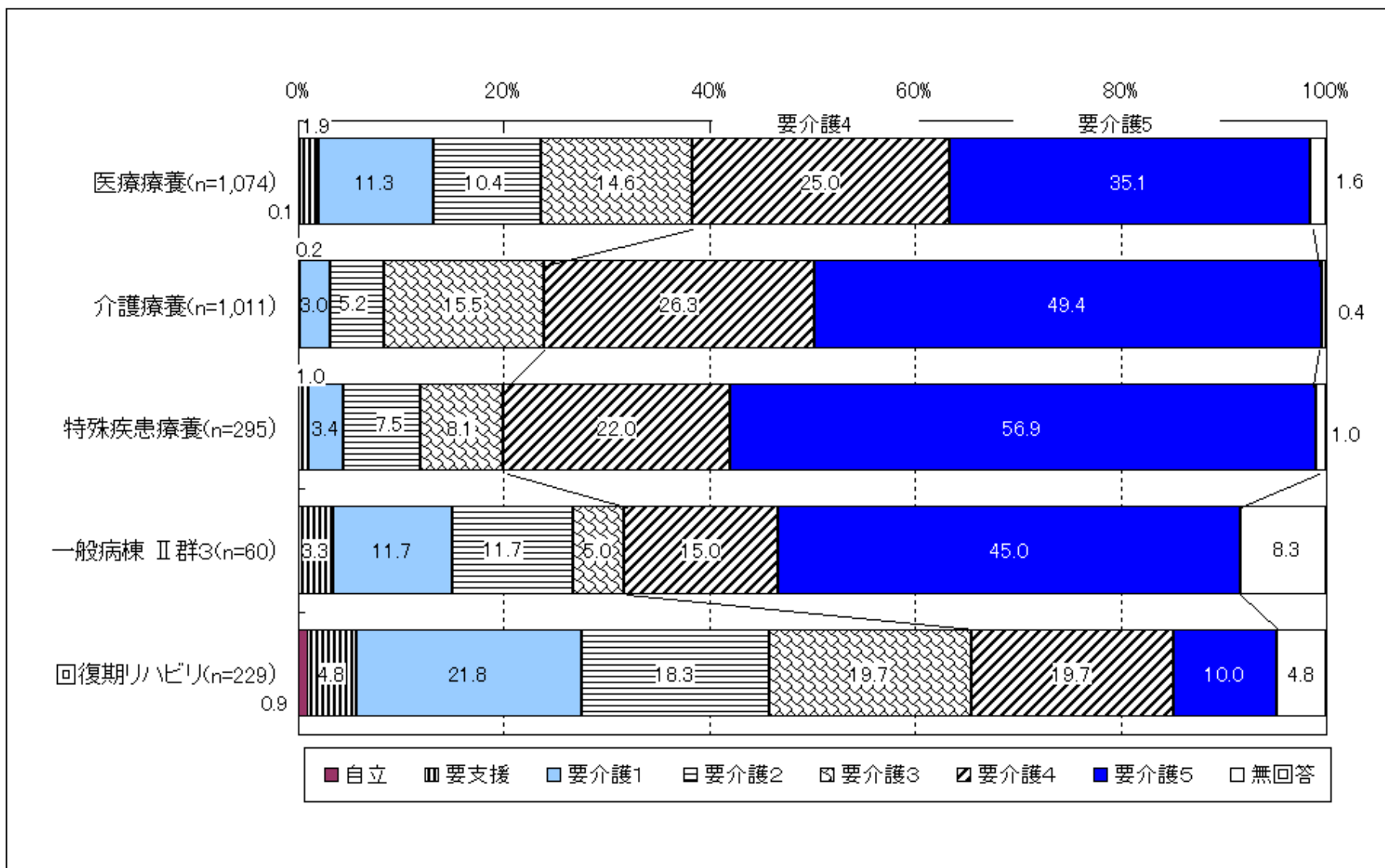
19) - 2 要介護認定を受けているか(65歳以上): 単数回答【調査票 5】



19) - 3 要介護度 (認定を受けている 40 歳以上): 単数回答【調査票 5】

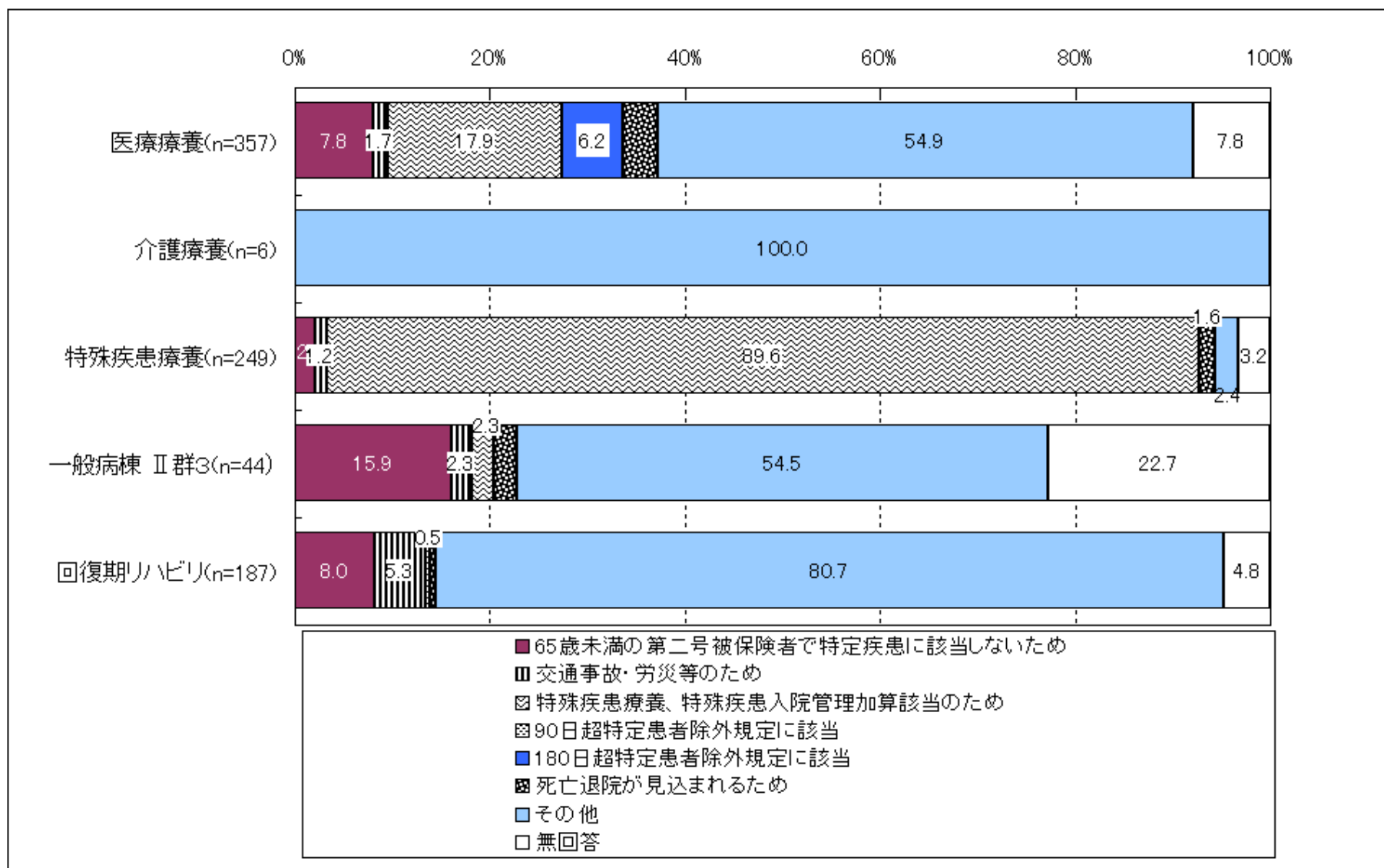


19) - 4 要介護度 (認定を受けている 65 歳以上): 単数回答【調査票 5】



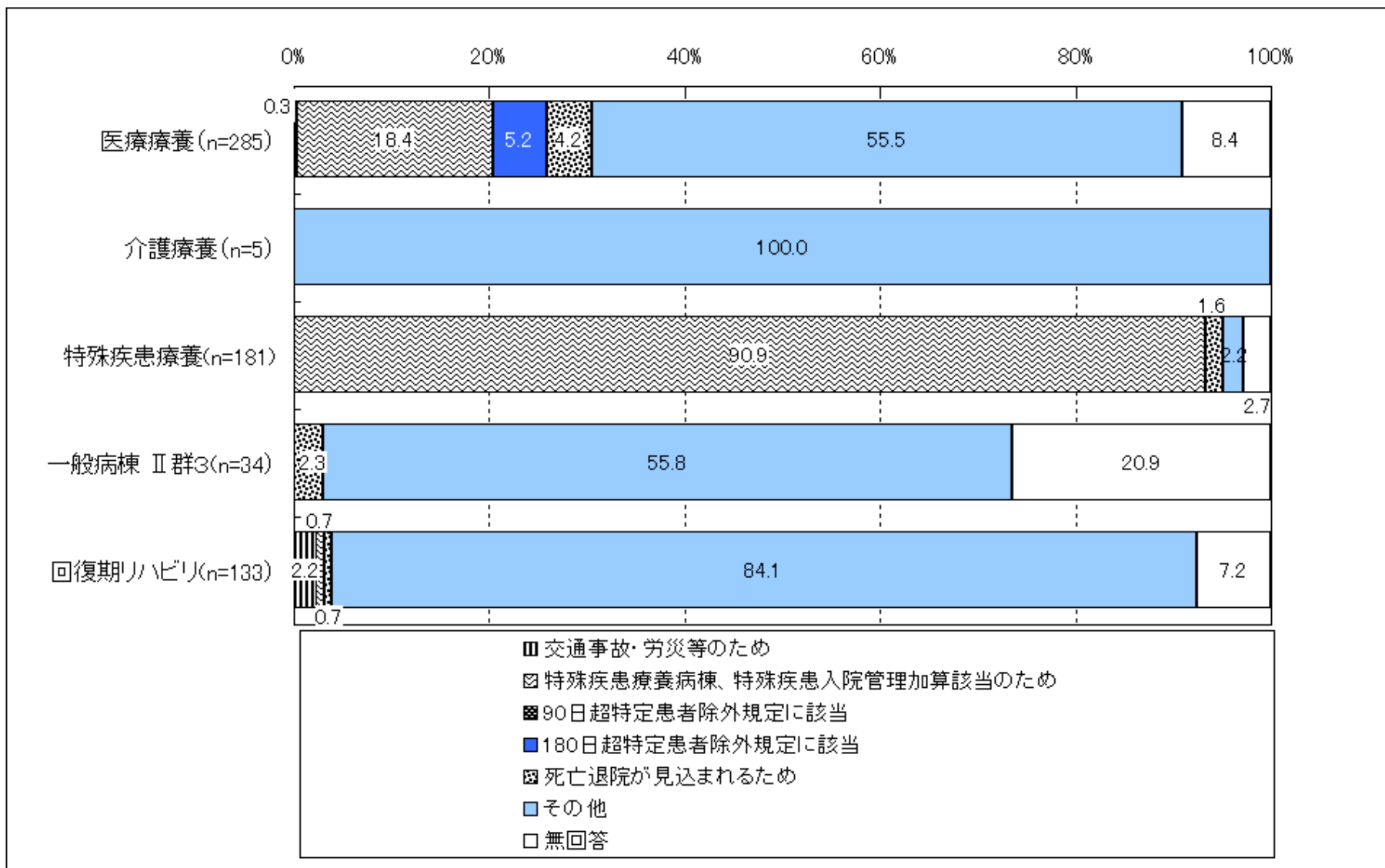
19) - 5 要介護認定を受けていない理由(認定を受けていない40歳以上): 単数回答

【調査票 5】



19) - 6 要介護認定を受けていない理由 (認定を受けていない65歳以上): 単数回答

【調査票 5】



参考 1：厚生労働省「障害老人の日常生活自立度判定基準」

ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。 J - 1 . 交通機関等を利用して外出する J - 2 . となり近所へなら外出する
ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。 A - 1 . 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する A - 2 . 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。 B - 1 . 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う B - 2 . 介助により車いすに移乗する
ランク C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する C - 1 . 自力で寝返りをうつ C - 2 . 自力では寝返りをうたない

参考 2：厚生労働省「痴呆性老人の日常生活自立度判定基準」

ランク		何らかの痴呆を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
ランク	ランク a	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。家庭外で上記の症状が見られる。
	ランク b	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。家庭内でも上記の症状が見られる。
ランク	ランク a	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。日中を中心として上記のような症状が見られる。
	ランク b	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。夜間を中心として上記のような症状が見られる。
ランク		日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
ランク M		著しい精神症状や問題行為あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

参考3：日常の意思決定を行うための認知能力

毎日の日課における意思決定。

0. 自立：	首尾一貫して理にかなった判断ができる
1. 限定的な自立：	新しい事態に直面した時にのみいくらかの困難がある。たとえば、普段は問題ないが、新しい検査を受けるときに指示に従えない、混乱するなど
2. 軽度の障害：	特別な状況において、判断力が弱く、合図や見守りが必要である。たとえば、普段は問題ないが、検査時は常に混乱するなど
3. 中程度の障害：	普段から判断力が弱く、合図や見守りが必要である
4. 重度の障害：	判断できないか、まれにしか判断できない